

神道の行事の一つに禊みそぎがあります。

禊は「身そぎ」であるとも言われ、水をそいで心身を祓い清める神事です。この禊は海や川などで行われるのが一般的ではありませんが、私達のすぐ周りでも行われていきます。皆様も一度は経験があると思われませんが、神社にお参りされた際に口や手をすすぐことも禊の一種なのです。

この禊の起源は我が国最古の書『古事記』の中で記述されています。神代の昔、伊邪那岐命・伊邪那美命というお二人の神がいらつしやいました。この二神はご夫婦となられ、大八嶋国おおやまのくに（我が国の美称の一つ・国土のこと）を始め多くの神々をお生みになられました。伊邪那美命は火の神をお生みになられた際、火傷をおってお亡くなりになられました。

その死を嘆き悲しんだ伊邪那岐命は死後の世界である黄泉の国へ伊邪那美命を連れ戻しに行かれます。その時、伊邪那岐命は妻との約束を破り死後の醜悪な姿を見てしまい、お怒りになられた伊邪那美命は夫に絶縁を言い渡します。命から逃げて帰った伊邪那岐命は阿波岐原あはきにて身に付いた黄泉の国の死穢しづを祓い除きます。伊邪那岐命が体を洗われるたびに神々がご誕生されました。この世に災いをもたらす神である禍津日神まがつひのかみ達・罪穢つみれを祓い除く力を持つ祓戸大神はらへどの達などがお生まれになります。そして最後に有名な三貴子がお生まれになります。左目を洗われた時にご誕生されたのが天照大御神、次に右目を洗われた時にご誕生されたのが月読命、そして鼻を洗われた時に須佐之男命がご誕生されました。この様に禊には、最も敬われている天照大御神がご誕生されたことから分かる通り、罪穢つみれを祓い除くだけではなく、物事を好転させる力も持っているのです。

私達は一般に煩惱と呼ばれるような罪穢つみれを年月と共に重ねてまいります。そうした罪穢つみれを年二回の大祓はらひや、御祈祷などの神事において行われる修祓しゅうはらひ（お祓いの儀）を以て祓い退け、最も神に近い状態とされる純粋無垢な姿に立ち帰らせるのが禊や祓なのです。

政界で問題を起こし、謹慎していた人が職に復帰する際「禊が済んだ」と言います。また、過去のいざこざを全て打ち捨てるとき「水に流す」と言います。これらも負の力を正の力に変化することのできる禊の効力に期待したもののなのでしょう。神話ではこうして水によって祓われた罪穢つみれは海に流され、やがては消滅すると考えられています。これは実際の水の浄化システムとよく似ています。人々の生活に利用され海に流れ出た汚れた水は、太陽によって温められ水蒸気となって空に昇り雲となります。風によって流された雲は山間部に至ると大地に降り注ぎ、地下に浸透した水は何十年何百年と濾過され、きれいな水となってやがて涌きだし川となります。禊みそぎは正にこの水の浄化の力を元に生み出されたのでしょうか。

こうした力をもつ川も近年汚染が進み、正常な生態系を失いつつあります。水は心の鏡とも言います。水が罪穢つみれを祓い、心身を浄化する力を持っているとすれば、現在の河川の汚れは、私達の心の穢つみれそのものを表しているのではないのでしょうか。